

【R5 特別の教科 道徳】
(群馬県教育委員会)

・どのような道徳的価値をねらいとし、どのように教材を活用する授業であるか、その内容を大まかに捉えられるように端的に記述する。（以下の例で示すような、学習するテーマなど）
例：「自由と自分勝手」「あきらめない心」

- ・指導者の価値観に関連する当該学級の児童生徒のこれまでの実態等（よさや課題）と、実態から育てたい道徳性の諸様相などを簡潔に記述する。
- ・児童生徒の実態を道徳性の諸様相（道徳的判断力、道徳的心情、道徳的实践意欲と態度）の視点から分析し記述する。
- ・単純に「～ができない」といった否定的な記述は極力避け、児童生徒の実態を肯定的に捉えて記述する。

フォントサイズ…原則：10.5 P、小：9.0 P まで

主題名「〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇」〔学指要領：A 〇〇〇〇〕

令和〇年〇月〇日 (〇) 第〇校時 〇〇〇〇教室
〇〇立〇〇〇学校 〇年〇組 指導者 〇〇 〇〇

1 価値観

例： ～～～～とは～～～～～と考える。なぜなら、～～～
 ～～～～することは～～～～につながるからである。
 しかし、この時期の児童（生徒）は～～～～～～～
 ～～～～～～のようになることがある。
 そこで、～～～～～～～～～～～に気付き～～～
 ～～などについて～～～～～と思えるようになるこ
 とが大切となってくる（養うことが大切となる）。
 また、今後、この内容項目は○学年においては、
 「～～～～～～」へと発展する。

例： 本学級の児童（生徒）は～～～～～～～～。
 ～～～～～～～～～している児童（生徒）は多い。
 ～～～～は理解しており、～～～～の判断はできる。
 しかし、～～～～。～～～～の様子は見られるが、
 ～～～～は～～～～である。
 これらのことから、本授業を通して～～～～～～～～
 ～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～しよう
 とする判断力（心情、実践意欲と態度）を育てたい。

あらすじについて

というあらすじである。

本教材は~~~~~

例： 本教材は、〜〜（教材のよさ）〜〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜〜〜できる教材である。
主人公が〜（中心発問として取り上げる場面）〜
〜〜〜場面での気持ちを考えることで、〜〜〜〜
〜〜〜〜〜〜〜〜（大切なこと）に気付くことの
できる適切な教材となっている。

- ・学習指導要領解説における内容項目を記述する。
例：〔A 節度、節制〕

- ・学習指導要領解説等を基に、本時で扱う内容項目で指導者が特に大切にしたいこと、ねらいとする道徳的価値について、以下のような内容を論立てて記述する。

「本主題で扱う内容項目の価値（よさや大切さ）」、「日常生活や一般社会と内容項目との関連」、「内容項目に関わる一般的な児童生徒の発達段階における様子」、「内容項目における指導の要点の系統性」等

- ・教材のあらすじを別枠で簡潔に記述する。

- ・ **価値観、児童（生徒）観を受け、考えさせたいことを明確にし、教材の特質やよさ、授業における具体的な活用方法などを記述する。**
- ・ **最も考えさせたい場面（中心発問として取り上げる教材中の場面）や中心発問等を通して気付かせたいことを記述する。**

- ・「**中心的な学習活動＋本時のねらいとする道徳的価値や焦点を当てたい道徳性の諸様相**」にし、**教師の立場で、具体的かつ簡潔に記述する。**
- ・**参観者の視点を踏まえ、「ねらい」をただけで、授業の主たる学習活動や目標がイメージできるように記述する。**
(授業の視点となる)

- ・「ねらい」を達成するために、本時で考えさせたいことなど、児童生徒の問題意識を基に、**児童生徒向けの言葉**を記述する。
- ・道徳科では、教材を基に考え議論する必要性が増すように内容項目に関わって掘り下げて考えたり、一言では返答できなかつたりする言葉が多くなる。

例：本当の友情とはどういうことだろう？
親切にすることが大切なのはなぜだろう？

- ・番号を付け、**児童生徒の立場**で、具体的かつ簡潔に、記述し、時間は大まかに（○分）で示す。
- ・「導入」「展開」「終末」の区切りは実線罫線、「展開」を細分化する場合は、点線罫線とする。

- ・ 児童生徒の反応を「S」として記述する。
- ・ 本時のねらいとする道徳的価値に対する児童生徒の意識が変容していく様子を表現する。

※基本発問については、指導上の留意点に示す。

- ・ 本時のねらいに迫るために多様な考えを引き出す言葉を具体化して示す。
- ・ 中心発問では教材の仕掛けを生かし、登場する人物の道徳的変容の前後に見られる行為や言葉の裏にある「意味」や「心」を問う。

・児童生徒の本音を引き出し、考えを深める言葉を具体化して示す。
例：常識や当たり前と考えていることに対しての問い直し
きれいごとで終わりそうな発言に対してのゆさぶり。

[illegible]

- ・ICT活用そのものが、児童生徒の道徳性を養うのではなく、ICTを「いつ、どこで、どのように」活用するか、教師がその有用性を明確に捉え、位置付けることが重要となる。 ※位置付かない場合もある
- ・ICTに関わる活動や指導上の留意点の文章の後に、【★○○】など、活用する機能を簡潔に示す。

■主な学習活動に位置付ける場合…児童生徒の立場
【★思考の補助】 【★共有】 【★共同編集】
【★保存・提出】 【★検索・収集】
【★撮影・録音・再生】 【★発信】 等
■指導上の留意点に位置付ける場合…教師の立場
【★提示・配布】 【★一覧表示】
※「問題解決的な学習を充実させる機能」(県義教発行)参照

- ・児童生徒が、授業の「ねらい」に迫るための教師による**直接的な手立て**（指導・支援）を記述する。

「問いかけ（発問）」「ゆさぶり」「助言」「促し」
「考えの取り上げ方やつなぎ方」「称賛」 等

・「（児童生徒が）～～できるように、（教師が）
～～する。」と、「**目的＋手立て**」で記述する。

- ・児童生徒が本時の学習全体を振り返り、本時で扱った道徳的価値に対するよりよい自己の考えや生き方への思いや願いを、具体的に想定して記述する。

・学習活動を踏まえ、「どのような評価材料から、どのような姿（学習状況）を見取り、評価するのか」を記述する。

※特に、児童生徒が一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかという点を重視する。